

スクイズプレートDG

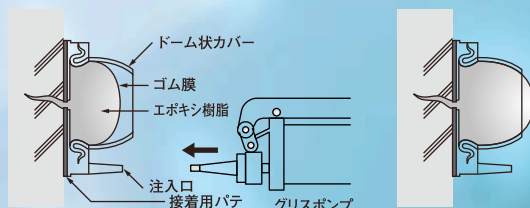
自動式低圧樹脂注入工法

スクイズ工法の原理

スクイズ工法の原理は、ゴム膜と固定枠からなる、注入治具（スクイズプレートDG）を用い、そのゴム膜の復元力を利用して、低圧で自動的に注入する工法です。スクイズプレートDGをひび割れの上20～30cm間隔に貼り付け、プレートに樹脂をグリスポンプや足踏み式ポンプを用いて充填します。充填された樹脂はゴム膜の復元力と毛細管現象により、ひび割れの隅々まで完全に注入されます。

スクイズ工法の特徴

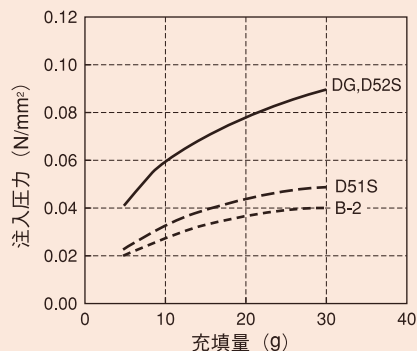
- 特殊機構により微細ひび割れまで完全注入できます。
- 治具の構造がシンプルで取扱いが簡単です。
- 粘度の異なる注入材を連続して追加注入できます。
- ひび割れのシールが簡単で、樹脂が漏れません。
- 施工効率が高く、経済的な工法です。



スクイズプレートDG

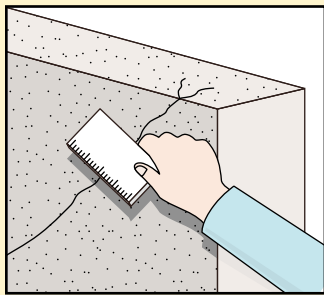
- 注入圧力 : 0.08N/mm²
- ゴム膜 : シリコンゴム
- フレーム : ABS樹脂
- 梱包単位 : 100個/箱

【スクイズプレートDGの注入樹脂量と圧力の関係】



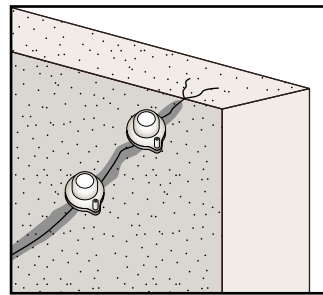


施工手順



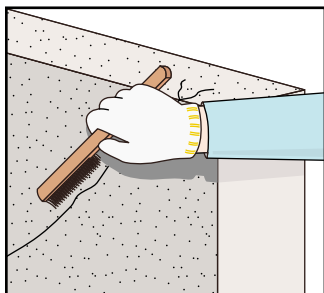
1 ひび割れの確認とマーキング

ひび割れの位置、幅、深さを確認する。



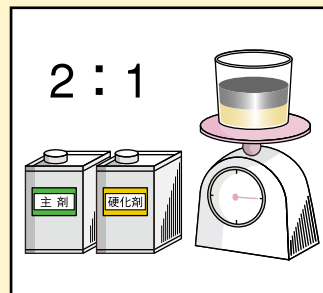
5 シール

ひび割れの表面とスクイズプレートDGの周りを確実にシールする。



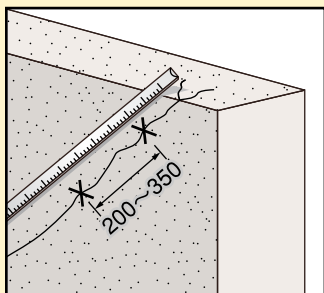
2 清掃

ひび割れ部分とスクイズプレートDG取り付け部を清掃する。



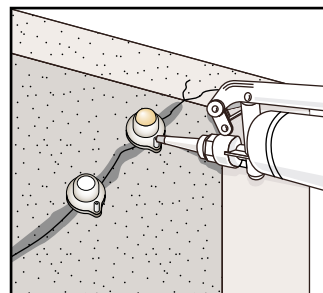
6 樹脂の計量

主剤と硬化剤は、可使用時間を考慮し、可使用時間内に使い切れる量を秤り、十分に混合する。



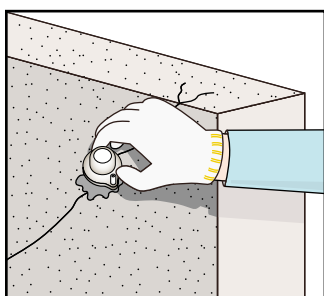
3 注入口の位置決定

定木を使って、200mm～350mm間隔注入口の位置を決める。



7 注 入

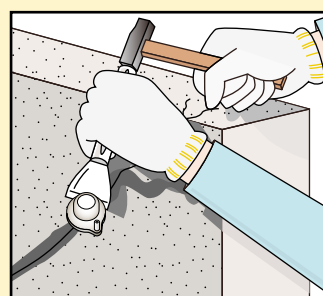
混合した樹脂をグリスポンプに充填し、スクイズプレートDGの注入口から注入する。ガイドカバーまでふくらんだら、一時注入を中止する。



4 スクイズプレートDGの接着

エポキシパテを混練し、スクイズプレートDGに塗りつけてコンクリート面に貼り付ける。

※パテが注入口のひび割れをふさがないように注意する。



8 仕上げ

樹脂が硬化した後、スクイズプレートDGを皮すきやサンダー等で除去する。

販売元

製造元



リフォーム新技術の創造と開発

ダイヤ技研株式会社

〒278-0015 千葉県野田市西三ヶ尾484-53